

ヴァイオリニストTAIRIKの戯言

〔第31回〕

弦が揺れると、僕は季節の風になる

+ 文 佐田大陸 Text by Tairik Sada +

ライブ中のアクセントについて
先日の千葉でのライブ中の出来事。
ライブ後半の初めの曲でいつものように汗水を垂らして弦をかき鳴らしていたら、「パツァン!!」と破裂音。なんと本番中に弦が切れてしまったのです。

今回はヴァイオリンの弦についてお話ししようと思います。まず、ヴァイオリンの弦は低い音から「ソ、レ、ラ、ミ」と並んでいます。一体弦は何でできているかというと、一番高い音の「ミ」はスチール、以下はナイロンでできています。

低い音の「ソとレ」に関して、昔は主に羊の腸でできたガット弦が使われていました。有名なのは「オリーブ」という弦です。音が良く、いまだに「コレじゃなきゃ嫌だ!」と使っている方は多いです。音が柔らかくて、上質な響きがします。

ちなみに、今僕が使っているのは、エヴァピラツツイのゴールドという弦です。音が狂いにくく、音に厚みと煌びやかさがあります。割とここ数年の新しい弦です。ちなみに、今はヴァイオリンで説明しましたが、切れてし

まったのは、僕が持ち替えて演奏していたビオラという楽器です。ヴァイオリンより一回り大きくて、少し低い音が出ます。ヴァイオリンが下から「ソ、レ、ラ、ミ」という音に対してビオラは「ド、ソ、レ、ラ」という並びです。全体的に五度下の音域になります。高音のヴァイオリンが花形なのに対して、中音域のビオラは縁の下の力持ちな役回りが多いです。

さて、マニアックな話になりかけてしまいました。本題です。弦が切れる事は良くあるのか? 結論からいうと、滅多にありません。

今回、本番で弦が切れたのは人生で初めての出来事でした! 切れたのは、ビオラの下から2番目の弦「ソ」の音です。練習中に切れたのをに入れても、今までで10回あるかないか、という感じでした。

珍しさとしては、双子の卵と遭遇する確率と同じくらいでしょうか…。うん、ピンとこない。

その時は「珍しいこともあるなあ」と予備の弦を張り直して、弾き直しましたが、後でその場にいたお客さんからは、「珍しいものが見られた」「美味しかった」と大きな反響をいただきました。

今回は分かりやすいアクセントという形でしたが、改めてライブは水もとの再認識。

毎日自分の細胞も、まわりの環境も、必ず少しずつ変化する。一見、上辺が一緒でも、中身は全く違ってくる。日々のルーティンは自分を高めてくれるけど、新鮮に向き合う姿勢は常に失ってはいけないあと改めて思いました。ただどこできることなら、次回のアクセントは、ズボンが破れるとか、もつと笑えることで起きてほしい。自分以外で。



profile

2010年3月に桐朋学園大学音楽学部大学院を修了。
2 ヴァイオリンとピアノのアンサンブル・ユニット「TSUKEMEN」のヴァイオリニストでリーダー。
2010年キングレコードからメジャーデビュー。
結成9年目にして450本以上の公演を海外や日本全国各地で開催、現在までにのべ35万人を動員している。